

特別展

浮世絵の別嬪さん

～歌麿、北斎が描いた春画とともに～

2024年4月9日(火)～6月9日(日)

本展では、1点ものの絵画作品である肉筆浮世絵のなかで、美人画を取り上げます。浮世絵誕生直前の17世紀の岩佐又兵衛の初期風俗画から、開祖である菱川師宣、江戸時代後期の喜多川歌麿や葛飾北斎らに至るまでの著名な浮世絵師たちの作品を取り上げます。また、春画の名品も併せてご紹介いたします。

勝川春章《雪月花図》3幅対
天明7～8年(1787～88)
MOA美術館
重要文化財
【5/8～6/9展示】



企画展

寄贈品展(仮)

2024年9月14日(土)～10月20日(日)

本展では、当館の設立者である大倉喜八郎と喜七郎親子にゆかりの作品を含む、近年ご寄贈いただいた作品を中心に展示を行います。喜八郎が援助をおこなった正倉院宝物の修理を手掛けた木工家・木内省古の花生の優品や正倉院宝物のモチーフを模した木画の合子、長くご寄託いただいていた大倉喜七郎ゆかりの近代絵画、古備前再現を目指した作陶で知られる森陶岳による味わい深い備前焼などを展示いたします。



森陶岳《備前半月台鉢》
昭和61年(1986)



伊東深水《小雨》昭和4年(1929)

特別展

志村ふくみ100歳記念

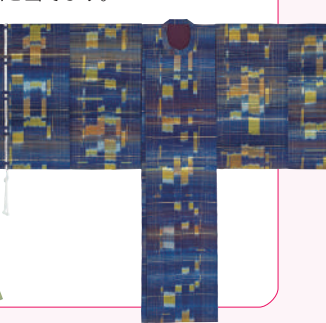
～《秋霞》から《野の果て》まで～

2024年11月21日(木)～2025年1月19日(日)

染織家志村ふくみの100歳記念回顧展。ふくみが染織の道に入るきっかけとなった《秋霞》、100歳を目前にして若き日を回想した《野の果て》、次世代へのメッセージを託した石牟礼道子原作の新作能「沖宮」の衣裳などを展示します。ふくみを染織の道に導いた母・小野豊とその民芸精神や、ふくみの芸術精神を育んだ夭折の画家である兄・小野元衛にも焦点を当てます。



木内省古《花喰鳥文合子》
明治～昭和(19～20世紀)



左から《秋霞》昭和33年(1958)、《野の果て》令和5年(2023)個人蔵、《龍神》平成30年(2018)

特別展

大成建設コレクション

もうひとりのル・コルビュジエ

～絵画をめぐって～

2024年6月25日(火)～8月12日(月・休)

まもなく没後60年を迎える建築家ル・コルビュジエは、20世紀を代表する建築家として知られていますが、同時に数多くの美術作品を残したアーティストでもあります。本展では、世界有数の点数を有する大成建設のル・コルビュジエ・コレクションの中から、美術作家としての業績をご紹介します。彼の素描やパピエ・コレがまとまって公開されるのはおよそ30年ぶりとなります。



左から
《テンプルにつく人物》1939～52年
《チャンディ・ガール》1951年
《牡牛XVIII》1959年



アートウィーク東京 特別展覧会

AWT FOCUS

2024年11月7日(木)～11月10日(日)

東京における現代アートの創造性と多様性を国内外に発信するアニュアルイベント「アートウィーク東京(AWT)」が、大倉集古館を会場に、作品が「買える」展覧会「AWT FOCUS」を4日間限定で開催いたします。都内に広がるギャラリーをAWTがつなぎ、キュレーションの可能性を探りながら、現代アートの歴史や言説をご紹介します。会場を構成する作品がすべて「available(購入可能)」な、新しい形式のプラットフォームです。

主催：一般社団法人コンテンツ・アートプラットフォーム



企画展

武士の姿・武士の魂

2025年1月28日(火)～3月23日(日)

大倉集古館所蔵品の中で存在感を放つ前田青邨《洞窟の頼朝》を中心とした武士の姿を描いた絵画や、《短刀 銘則重》などの名刀とともに、武力の象徴でもあった鷹の姿を描いた絵画作品を取り上げます。武士の姿がいかに描かれたか、武士が自らの存在を託し象徴としたモチーフにはどのようなものがあるかに焦点をあて、美術品を通してご覧いただきます。



恵隆印《鷹図》
室町～江戸時代初期・16～17世紀



前田青邨《洞窟の頼朝》昭和4年(1929)重要文化財



《短刀 銘則重》鎌倉時代・14世紀 重要文化財